



オクタス総合研究所

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-1-19

TEL. 06-6204-0821 / FAX: -0822 / octus@deluxe.ocn.ne.jp

オクターゼによる感染症対策

■ はじめに

受診者の中に感染症患者がいる場合には、その受診者から医師・看護婦、さらなる受診者への感染の可能性があります。私どもは「すべての受診者に感染症陽性の可能性がある」と想定した対応 (Universal & Standard Precautions) を安全で効率良く達成することを可能にするため本剤の研究開発を進めて参りました。

■ 感染症対策の基本的考え方

- 1) 汚染対策はできるだけ汚染プロセスの上流で行う。
- 2) 消毒するにあたり「余計な物 (夾雑物)」を予め除去する。
医療器具の表面には、血液・体液や組織片などの「生体性タンパク質」が付着しており、それが微生物の培地になる。このような状態のまま消毒薬に浸漬しても：
 - ①微生物の絶対量が多い。
 - ②タンパク質は水に溶けにくい上に消毒薬の作用により凝固する性質があり、微生物との間にバリアをつくる。
 - ③消毒薬は、タンパク質などの有機物に触れると効力が減少する可能性がある。
などの理由により消毒の効率が低下してしまうため、予めタンパク質・脂肪を分解除去する。
- 3) 従って、生体タンパク質を予め除去しておけば消毒薬の必要量や所要時間を最小限にすることができ、医療器具や人体に対する悪影響を軽減することが可能になる。

■ 生体性タンパク質の分解除去技術

タンパク質は、アミノ酸の結合体であり、分子量の多いものほど疎水性を示します。
酵素系洗浄剤である「オクターゼ」は、これを短時間で親水性を示す低分子タンパク質に分解し、しかも溶水状態でその分解能力を長時間 (6 ヶ月以上) 持続できる効果を保有しています。

以上